

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 中学校社会科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 上村 謙太郎

研究協力員 大津町立大津中学校 教諭 原 雄二

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

生徒が「見方・考え方」を働かせ、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、課題を解決していくようにすることを目指し、『見方・考え方』に着目した問いの工夫を設定した。

社会科固有の「見方・考え方」である「社会的な見方・考え方」について、新学習指導要領解説社会編では、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法」と示されている。その視点や方法について、地理的分野では「社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」と記されている。

この視点や方法を生かした「問い」を設定することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりすることができるようにする。また、単元や一単位時間の構成を工夫することで、問いを解決するために、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりする学習活動の充実を図る。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習活動を通して、生徒が学びを実感するとともに、その学びを次の活動につなげることができるようにすることを目指し、「学びを実感する振り返りの工夫」を設定した。

学習内容の深まりや広がり、他者との協働による解決場面等の学習方法のよさを生徒自身が認識できるようにすることが、学びを実感するために重要であると考えた。そのためには、教師側から学びの価値を示すことと、生徒自身が学びの価値に気付くことの両面があると捉えた。

そこで、教師が適切な場面で学びのよさを価値付けることとした。また、生徒自身が学びの価値に気付くようにするために、自己評価の際に「分かったことは何か」「次に調べたいことは何か」など、振り返りの視点を明確に示すこととした。

2 研究の実際

検 証 中学校第2学年

単元名 「日本の諸地域（九州地方）」

(1) 本単元の授業設計

① 生徒の実態から

本単元を学習するに当たり、質問紙調査及び評価問題を行った。結果は以下のとおりである（n=38）。

○社会科の学習で「楽しい」と感じる活動は何ですか。

- ①先生の話聞く（20名）②自分で課題を追究する（10名）
③学び合いをする（20名）④見学活動（20名）
⑤発表をする（7名）⑥自分の考えを書く（10名）
⑦討論をする（10名）
⑧学んだことを生かして新聞やレポートにまとめる（12名）

○社会科の学習で「分かった」と感じる活動は何ですか。

- ①先生の話聞く（32名）②自分で課題を追究する（6名）
③学び合いをする（31名）④見学活動（11名）
⑤発表をする（6名）⑥自分の考えを書く（7名）
⑦討論をする（13名）
⑧学んだことを生かして新聞やレポートにまとめる（8名）

○基礎的・基本的知識を問う問題について

十分満足（35名） 満足（3名） 支援が必要（0名）

○複数の資料を関連付けて説明する問題について

十分満足（15名） 満足（13名） 支援が必要（10名）

学び合いをすることで楽しさを感じたり、分かったと感じたりしている生徒は多く、学び合いのよさを実感していることが分かる。一方で、「自分で課題を追究する」「発表をする」を選んだ生徒は少なく、主体性に課題が見られる。また、複数の資料を関連付けて説明することにおいては、支援を要する生徒が3割近くいる。

② 単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野の内容(2)「日本の様々な地域」の中項目ウ「日本の諸地域」を受けて設定したものである。本単元では、九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考察することを通して、九州地方の地域的特色を捉えさせることを主なねらいとしている。

本単元において、地域的特色を追究するために適切な課題を設定し、他者と協働しながら課題を解決する学習を行うことは、社会に見られる様々な課題の解決に向けて構想するという点で、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

○生徒が主体的に課題を追究することができるように、適切な課題を設定するとともに、調べ学習の時間を確保する。

○すべての生徒が資料の読み取りや資料を活用した説明ができるように、資料の精選を図るとともに、互いに協力しながら調べ学習を行わせる。

○課題解決のための言語活動を充実させるために、本時のめあて、学習課題、学習の流れを示すとともに、課題解決のために必要な視点と方法（考察の仕方）を明確にする。

イ 研究の視点

(7) 研究の視点 1

- ①「美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう」という単元を貫く問いを設定し、見通しを持って学習に取り組ませる。
- ②九州地方の環境を守る取組について、観光業、農業・畜産業・工業の視点から協働しながら調べさせ、単元を貫く問いを解決できるようにする。

(4) 研究の視点 2

- ③自分の考えの変容や、その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。
- ④視点を明確にした振り返りを行わせることで、生徒が学びを実感できるようにする。

④ 単元の目標及び評価規準

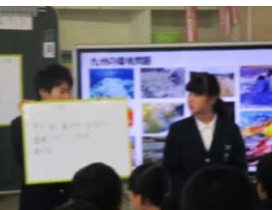
単元の目標	九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考察することを通して、九州地方の地域的特色を捉えることができる。
社会的事象への関心・意欲・態度	①環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに、九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
社会的な思考・判断・表現	①九州地方の地域的特色を、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用 of 技能	①九州地方の地域的特色に関する様々な資料から、九州地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ②適切に選択した情報をもとに、九州地方の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。
社会的事象についての知識・理解	①環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに、九州地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

⑤ 単元計画

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	3	1 九州地方の自然環境の特色について考える。 2 九州地方の人口や産業の特色について考える。 ※「どこに位置しているのか」「どのように分布しているのか」「九州地方はどのような特色があるのか」など、社会的な見方・考え方に着目した問いを設定する。 3 単元の学習課題を設定する。	【関心・意欲・態度】①：発表・ワークシート 【資料活用 of 技能】①②：ワークシート 【研究の視点 1】 ①九州地方の自然環境、人口や産業の特色を踏まえて、九州地方の環境を守る取組を紹介し、「美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう」という単元を貫く問いを設定する。
		単元を貫く問い 美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう。	
二	3	4 九州地方の環境を守る取組について調べ、環境を守り続けていくために必要な鍵を探る。 ※観光業、農業・畜産業・工業の2つの視点に分かれて調べさせる（エキスパート活動）。 ※調べる視点については、グループ内で役割分担をさせる。 ※環境を守る取組を調べるために必要な資料を配付し、各グループで、協働しながら調べさせる。	【資料活用 of 技能】①：ワークシート 【研究の視点 1】 ②九州地方の環境を守る取組について、観光業、農業・畜産業・工業の視点から協働しながら調べさせ、単元を貫く問いの解決に向かうようにする。 【研究の視点 2】 ④「必要な鍵について見えてきたこと」「次に調べたいこと」を振り返らせることで、生徒が学びを実感するとともに、学びがつながるようにする。

三	本時2／2	5 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について考える。 (1) 観光業、農業・畜産業・工業グループに分かれて、必要な鍵について考える。 ※グループに分かれて、環境を守るための取組について発表させたり、環境を守り続けていくために必要な鍵について話し合わせたりする。 (2) それぞれのグループの考えを交流（ジグソー活動）し、最終的な自分の考えをもつ。	【思考・判断・表現】①：発表・ワークシート 【研究の視点1】 ①九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について、観光業、農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えさせる。 【研究の視点2】 ③自分の考えの変容や、その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。 ④単元を通して分かったことや学んだことを振り返らせることで、生徒が学びを実感できるようにする。

(2) 指導の実際（8／8時間）

過程	学習活動及び指導上の留意点	
導入	1 本時の目標（めあて）を確認する。 ○前時の学習を振り返り、本時の学習内容について見通しをもたせる。  	
展開	2 本時の問いについて話し合う。 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何だろう。 (1) 観光業、農業・畜産業・工業グループで考えたことを班で交流する。 ○他のグループとの共通点や相違点に着目しながら話し合わせる。   (2) 全体で交流する。 ○根拠（資料）を明確にしながら発表させる。   【研究の視点1】① 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について、観光業、農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えさせる。	

整理

【研究の視点2】③

自分の考えの変容や、その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。

3 学習したことをまとめる。

(1) 本時の問いに対する最終的な考えを持つ。

○班や全体での交流をもとに、単元を貫く問いに対する納得解をまとめさせる。

評価：思考・判断・表現（発表・ワークシート）

B基準 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について、観光業、農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えている。

(2) 考えをペアで交流する。



4 学習したことを振り返る。

○単元を通した振り返りをさせる。



【研究の視点2】④

単元を通して分かったことや学んだことを振り返らせることで、生徒が学びを実感できるようにする。

	大変良い	もう少し
①一つの見方や考えだけでなく、別の見方や考え方も使いながら、学習課題を解決することができた。	⑤・4・3・2・1	
②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく表現することができた。	⑤・4・3・2・1	
③目的にあった道具や方法で、自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりすることができた。	⑤・4・3・2・1	
④今日の学習で「分かったこと」「できるようになったこと」がある。	⑤・4・3・2・1	
⑤感想等（分かったことや今後調べたいことなど）	環境問題を無くすためには、自然の恵みについて良く知り、人々が共に存在している事を認識することが大切だと思ふ。	

	大変良い	もう少し
①一つの見方や考えだけでなく、別の見方や考え方も使いながら、学習課題を解決することができた。	⑤・4・3・2・1	
②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく表現することができた。	⑤・4・3・2・1	
③目的にあった道具や方法で、自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりすることができた。	⑤・4・3・2・1	
④今日の学習で「分かったこと」「できるようになったこと」がある。	⑤・4・3・2・1	
⑤感想等（分かったことや今後調べたいことなど）	九州を守るための鍵をクラスで見つけることができたので、この単元で学習したことを生活に生かそうと思います。	

(3) 検証結果と考察

① 「豊かな学び」について

表1は、「豊かな学び」に関する変容について「学習活動の充実」と「成長の実感」の2つの観点で調査した質問紙調査の結果である。

表1 「豊かな学び」に関する変容 (n=38) 4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

	質問	事前	事後	有意確率
学習活動の充実	社会科の学習のとき、一つの見方や考え方(方法)だけでなく、別の見方や考え方(方法)も使いながら、問題を解決しようとしている。	2.97	3.55	0.0006**
	社会科の学習のとき、自分のできることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	3.31	3.55	0.091
成長の実感	社会科の学習のとき、「分かるようになった」「できるようになった」と感じる。	3.22	3.63	0.009**
	これまでに学んだことを生かして社会科の学習に取り組んでいる。	3.25	3.49	0.029*
	社会科の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている。	2.97	3.32	0.033*

「学習活動の充実」において、有意に向上が見られたのは、「見方や考え方(方法)を使う」であった。これは、研究の視点1によって、社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする必然性が生まれたことによるものと考えられる。また、「成長の実感」において、有意に向上が見られたのは、『「分かるようになった」「できるようになった」と感じる』であった。これは、研究の視点2によって、分かったこと、次に調べることを明確に認識できたこと、他者との協働による課題解決の実感を得たことによるものと考えられる。

② 「未来の創り手」について

表2は、「未来の創り手」に関する変容について調査した質問紙調査の結果である。

表2 「未来の創り手」に関する変容 (n=38) 4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

質問	事前	事後	有意確率
自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が分かるようになった、できるようになったと思う。	3.28	3.47	0.211
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が分かるようになっている、できるようになっていると思う。	3.38	3.50	0.345
自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から分かるようになっていて、できるようになっていると認められていると思う。	2.75	3.11	0.071
自分は、学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	2.75	3.08	0.065
自分は、周りの人が学校生活や学習を通して学んだことをもとに、主体的になったと思う。	3.00	3.21	0.172

有意に向上が見られたものはなかったが、全体的に平均値が上昇していた。また、表2の質問以外に、「社会科の学習を通して、よりよい社会をつくって

いこうとする意識が高まっている」という質問を行った。その結果を表したものが図1であり、よりよい社会をつくっていこうとする意識が高まっていることが分かる。

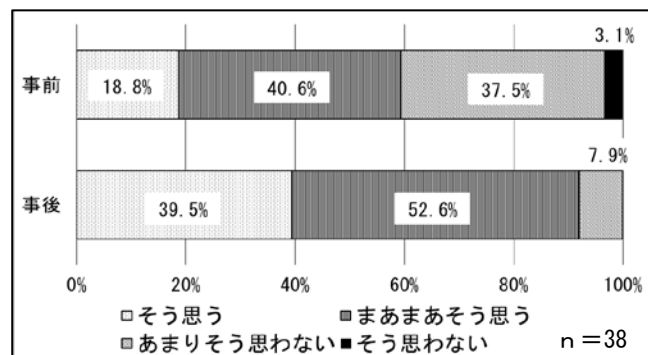


図1 よりよい社会づくりに対する意識の変容

表2, 図1の結果から、「学習活動の充実」と「成長の実感」を視점에据えた「豊かな学び」が、未来の創り手を育成することにつながると確認できた。

3 研究のまとめ

今回、中学校社会科では、研究の視点によって「豊かな学び」につながったかを検証した。

(1) 成果

研究の視点1については、社会的な見方(視点)や考え方(方法)を生かした問いを設定すること、研究の視点2については、振り返りの視点を明確に示し、学びの価値に気付かせることが有効であると分かった。つまり、「豊かな学び」のためには、社会的な見方・考え方に着目した問いや学びを実感する振り返りが役立つことが分かり、それらの手段を明らかにすることができた。

(2) 課題

授業後の質問紙調査の「これからの学習や生活に生かす」「よりよい社会をつくっていく」の項目において、若干名、否定的な回答をした生徒がいた。学びのつながりを更に意識した単元構成や振り返りの工夫、生徒がより自分事として捉え、主体的に追究していくような問いの設定を行っていく必要がある。

《引用・参考文献》

- ・中学校学習指導要領解説社会編(平成29年3月)
- ・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(平成28年12月)